

1.計画名称

縄文プロジェクト

2.計画全体の進捗状況及び総合評価

進捗評価	やや遅れている	説明	(R4・総括評価共通) 公民協働による横断的な取組により、市民の「縄文」に対する関心が高まり、当市のまちづくりに欠くことのできない地域資源として認識が深まったが、縄文プロジェクト「第2ステージ」の方向性や組織体制を検討することができていない。
今後の重点化施策番号	1	説明	将来の茅野市のために郷土の縄文文化が役立つことを願い、先人達が守り伝えてきた縄文史跡や縄文時代の遺物を保存するだけでなく、その価値を考古学の世界に留めず、広く市民と共有し、多様な市民生活にいかしていかなければならない。形(手法)が変わったとしても、縄文をいかした(意識した)まちづくり、人づくりは継続する。

3.各施策等における評価内容と改革改善

区分	施策名称	進捗評価	総合評価		改革改善の具体的内容
			主な取組内容や成果	課題	
1	縄文プロジェクトの推進(1)	やや遅れている	(R4・総括評価共通) 縄文文化賞事業、縄文ホームページ運営事業、日本遺産関連事業、縄文まつりの開催などにより、茅野市の縄文の認知度を高め、誘客につなげることができた。	(R4・総括評価共通) 第0回縄文ライフフェスティバル(H29開催)と縄文まつりは、茅野市の縄文を知らしめるこれ以上ない取組で、縄文がまちづくりに欠くことのできない要素であると広く市民に認識された。一方で、そうしたイベントをより盛大に行うことが目的化した感はある。実行市民会議では、こうした点をふまえ、新たに組織体制を構築し、内容の見直しを行い、縄文プロジェクトを継続するとして、今後どのように展開していくか課題である。	縄文プロジェクトの拠り所となる尖石、駒形、上之段遺跡の整備を進め、面で活用できる環境を整える。また、縄文遺跡と縄文文化の価値、重要性、魅力を推進拠点となる考古館の事業を通じ発信すると共に、産業や観光分野等と連携を図り、新たな縄文ファンを増やしていく。こうしたハードとソフトの両面で進めていくが、具体的な取組を検討するために、まず市の方向性を示す必要がある。
2					

※5つ以上の場合は裏面へ

4.関連市民団体等の主な意見及び対応のポイント

		主な意見	市の考えや対応など
関連市民団体等名称	縄文プロジェクト実行市民会議	令和4年4月22日の縄文プロジェクト実行市民会議において、縄文プロジェクトのあり方を検討し直し、新しい組織体制で縄文プロジェクトを継続することが確認された。	縄文プロジェクト「第2ステージ」に向け、これまでのような委員を選任した後に事業を策定するのではなく、事業と目指すべき方向性を定めたくらいで人選や組織体制を検討することとしたい。
開催回数	開催なし		
参加延べ人数			
関連市民団体等名称			
開催回数			
参加延べ人数			
関連市民団体等名称			
開催回数			
参加延べ人数			